

新年のごあいさつ 笠間市長山口伸樹

あけましておめでとうございます。市民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より市政全般にご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返って

昨年の話題といえば、リオオリンピック・パラリンピック大会での日本人選手の活躍ですが、本市においても若いアスリートの活躍が明るい話題を与えてくれました。

まず、畑岡奈紗さんが日本女子オープンゴルフ選手権において、国内女子メジャー大会史上初めとなるアマチュア選手の優勝という快挙を成し遂げ、本市第1号の特別功労表彰を授与しました。いわて国体のゴルフ女子団体の部においては、金澤志奈さんが茨城県代表チームのメンバーとして優勝を果たしており、笠間市出身の若い選手たちが、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会で活躍されることを期待しています。また、スナッグゴルフの全国大会では、友部小学校が優勝を果たしており、次代を担う子どもたちの成長も楽しみです。

スポーツ以外においても、農業者として3名の若者が新規就農し、4月に開校した県立笠間陶芸大学校に、将来の陶芸家を目指す12名が入学するなど、芸術、文化、農業、商工業等のさまざまな分野においても、若い人たちの活躍が期待されます。

一方、市政においては、昨年の3月19日に新市誕生から10周年の節目を迎え、新たなスタートを切ったところです。4月には子育て環境の充実のため、幼保連携型認定こども園「かさまこども園」が開園しました。9月には笠間稲荷周辺まちづくり整備事業として進めてきた笠間稲荷門前通りが稲田石による石畳に生まれ変わりました。学校教育においては、市内全小中学校に英語指導助手を配置し英語教育の充実を図るとともに、学校生活におけるさまざまな問題に対応するためのス

クールソーシャルワーカー派遣などの取組みを実施してまいりました。

また、広域連携による取組みとしては、水戸市を中心とした定住自立圏構想による県央地域活性化のため、初期救急医療体制の充実を図る取組みなどの推進、いばらき消防指令センターによる広域救急体制の確立などを図ってきました。

これからのまちづくり

さて、本年は、10年後の市のあるべき姿を描いた将来ビジョンとその実現に向けたアクションプランで構成される「笠間市第2次総合計画」を策定し、新たな時代に対応したまちづくりの取組みをスタートさせます。

昨年公表された平成27年国勢調査の確定値によると、日本の総人口は5年前よりも約96万人減少しており、また、日本の総人口に占める15歳未満の人口割合は12・6%と世界最低の水準である一方で、65歳以上の人口割合は国民の4人に1人以上の26・6%であるという人口減少、少子高齢化社会の状況にあります。

このような状況の中で、将来にわたり成長・発展・持続する笠間市を作るため「笠間市創生総合戦略」と連動させながら、「笠間ブランドの確立に向けた人・街・モノづくり」を重点課題として位置付け、さまざまな取組みを進めていきます。

1 笠間市の将来を担う「人」を育てる

人口減少、少子高齢化による影響を緩和し持続可能な社会を構築するためには、結婚から子育てまでの支援強化、特色ある学校教育の展開、生涯を通じ学び、働くことへの希望を実現させる取組みにより、本市の将来を担う「人」を育てることが必要です。この4月には幼保連携型認定こども園「いなだこども園」を開設します。南小・南中を一体化した「笠間市立みなみ学園義務教育学校」を開設するとともに、児童生徒の学力向上に向けた指導体制の強化を図ります。また、笠間版CCRC（生涯活躍のまち）構想の実現に向けた取組みを進めてまいります。

2 賑わいを生む魅力ある「街」をつくる

人が集まり、活動し、賑わいを生み出すためには、地域住民や観光客の交流を促進し、多目的な活動拠点を有する魅力ある「街」をつくる必要があります。この1月には地域交流センターともべが開館し、また、岩間地区の地域交流センターについても本年末の完成を予定しています。地域の医療・保健・福祉・地域包括ケアの拠点機能を持つ「地域医療センターかさま」については、平成30年4月の開設を目指してまいります。笠間稲荷神社周辺の賑わい創出のため旧井筒屋本館を改修し、観光拠点としての整備を進めます。また、空家・空地の適正管理を図るとともに、それら既存のストックを活用し移住・定住に結び付ける取組みを進めてまいります。

3 地域の特性を活かした「モノ」をつくる

地域経済の活性化のためには、地域の特性を活かした「モノ」の流れを生み出すことが必要です。既存の産業を伸ばし、挑戦する企業や事業所等の支援強化を図るとともに、モノや人の流れを生み出すための企業誘致を推進してまいります。農業や観光といった本市の強みを活かした産業の促進のため、地場産品である栗のブランド化や生産量向上に向けた取組み、筑波海軍航空隊跡地の戦争遺構を活用したまちづくりの取組みなどを進めます。また、さまざまなモノづくりに携わる職人や作家への支援、人材を呼び込むための取組みなどを進めてまいります。

以上、まちづくりの一端を述べさせていただきましたが、輝ける未来に向けて着実に前進が図られるような取組みを本年も重ねてまいりますので、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、市民の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のあいさつといたします。